

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成26年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成26年度～平成27年度
5. 課題番号

2	6	5	9	0	0	9	7
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 原子力防災訓練の検証と地域コミュニティの再審

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 2 4 0 3 4 5	ヨシハラ ナオキ 吉原 直樹	社会情報学部	教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
5 0 2 3 8 9 2 9	マツイ カツヒロ 松井 克浩	新潟大学・人文社会・教育科学系	教授
8 0 1 3 3 9 1 6	コンノ ヒロアキ 今野 裕昭	専修大学・人間科学部	教授

9. 研究実績の概要

研究実施計画に基づいて、まず（1）吉原研究室で調査計画実施のための打ち合わせと、大まかなスケジュールリングを行った。そして研究代表者および研究分担者の役割と分担にしたがって、まず関連文献・資料の収集を行った。具体的に吉原は大熊町および榎葉町の関連資料を大熊町役場（会津若松市）および榎葉町役場（いわき市）で収集した。今野は福島県立図書館および福島県庁で相双地区の関連資料を収集した。松井は新潟県立図書館、柏崎市立図書館および新潟大学で柏崎原発に関する関連資料を収集した。現在、その資料を集約中で、近々、それらをファイリングしてメンバー間で共有することになっている。

次に（2）もっぱら吉原が会津若松市の仮設住宅およびみなし仮設住宅の住民に対して、プレ3・11の原子力防災訓練への参加をめぐるヒヤリングを十数回にわたって実施した。その成果の一部はすでに口述資料として集約済みである。なお、当初予定していたアンケート調査は、住民の離散状況がはなはだしく、事実上、母集団を確定することができず、断念した。その代わり、ヒヤリングは当初想定していたものより拡げ、アンケート調査不実施によって生じた欠を埋めることにした。ただし、拡大した分、集約に時間がかかり、現在、その作業を急いでいる。

26年度は、以上の（1）、（2）に加えて、（3）榎葉町役場で課題をめぐるセミナーを実施し、吉原、町担当者、消防団長、区長、さらにメンバー以外の松本行真（東北大学災害科学国際研究所准教授）が参加し、論点を確認するとともに課題を抽出した。なお、当初予定していた、（1）および（2）のfindingsを集成した中間報告書の作成は、27年度にずれ込んだ。